

CONTENTS

経済産業省本館ロビーにおける「地質の日」記念展示

水晶拾い一砂の中から水晶を見つけよう！

豊橋市自然史博物館「地質の日」記念講演会「豊橋の大地の成り立ち」

平成22年度新入職員研修（野外巡検）

つくばフェスティバル2010に実験ブースを出展

日本ジオパーク委員会公開プレゼンテーション、および第8回日本ジオパーク委員会開催報告

日本地球惑星科学連合2010年大会ブース出展展示

ジオネットワークつくばニュース5月号

新人紹介

新人職員研修参加者からのひとこと

スケジュール

編集後記

経済産業省本館ロビーにおける「地質の日」記念展示

中島 礼（地質情報研究部門）・濱崎 聡志・川畑 晶・中島 和敏・藤原 智晴
（地質調査情報センター）・利光 誠一・青木 正博（地質標本館）

2007年度から始まった経産省本館ロビーにおける「地質の日」記念展示ですが、今年度は国内での活動が活発となってきたジオパーク活動の紹介を中心に、「地質の日」の紹介展示および鉱物・化石標本の展示を4月19日から5月10日にかけて行いました（写真）。

国内のジオパーク活動は、ここ1～2年間、多くの地方自治体で盛り上がってきています。GSJにはジオパークを審査する日本ジオパーク委員会事務局が設置され、経産省の知的基盤課はジオパーク活動をバックアップしているという経緯から、今回の展示となりました。国内には、昨年世界ジオパークに認定された洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島の3地域、日本ジオパークであるアポイ岳、南アルプス（中央構造線エリア）、恐竜渓谷ふくい勝山、山陰海岸、室戸、隠岐、天草御所浦、阿蘇の8地域があります。パネル展示には、これらの地域のジオの特色を解説し、風光明媚な地形やダイナミックな地層などの写真を活用しました。

また、各地域が作成したパンフレットも宣伝として配置しました。最近、ジオパークという言葉が新聞やニュース、雑誌などに露出するようになり、今回の展示を”おや？聞いたことあるぞ”という感じで気づいてもらい、そして”ジオパークとはなんぞや？”ということを理解してもらえればと思って展示を作成しました。鉱物と化石の展示はショーケースを用いました。やはり標本展示は目を引きませんが、とくに派手な鉱物は目立ちます。鉱物は「大地を彩る鉱物たち」と題して、生活に密着する「色」に着目して、地殻を構成する鉱物のうち、7色（虹：孔雀石、紫水晶、辰砂、硫黄、ほか）と金色（黄鉄鉱）および黒色（煙水晶）の計9色9点の鉱物標本を展示しました。一方、化石は「地球史の語り部」と題して、地球の歴史を代表して進化、絶滅をしてきたグループである、古生代の三葉虫類、中生代のアンモナイト類、新生代の二枚貝類（トウキョウホタテ）の標本を展示しました。

経産省のロビーには、本省の職員はもちろんのこと、外部の方々が多く出入りしているため、展示が多くの人の目にとまったことと思います。「地質の日」や「ジオパーク」というGSJが推進するアウトリーチ活動により、少しでも地質分野の認知度向上に役立ったのではないかと思います。本展示の設置には、経産省知的基盤課（当時）の永田邦博さん、地質調査情報センターの光畑裕司さん、松島喜雄さんにもご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

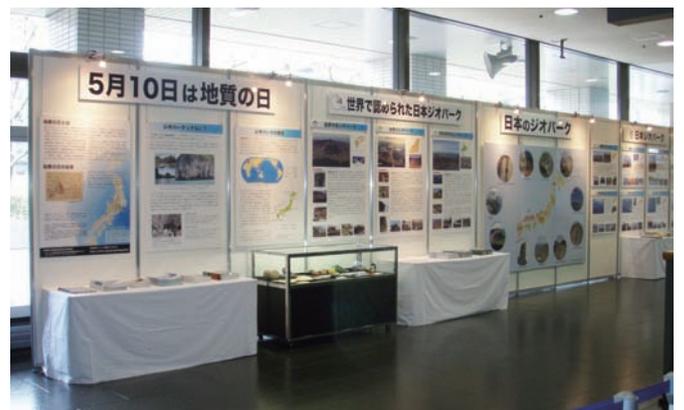


写真 パネル展示の様子。

水晶拾いー砂の中から水晶を見つけよう！ー

*現 計量標準管理センター

坂野 靖行・兼子 尚知・中澤 努・佐藤 大介・西田 尚央 (地質情報研究部門), 利光 誠一・長森 英明・吉田 朋弘*・澤田 結基 (地質標本館), 柳澤 教雄・船津 貴弘・井川 怜欧 (地圏資源環境研究部門)

地質の日関連イベントの一環として、5月9日(日)に地質標本館において「水晶拾い」が開催されました。これは産地の河原を模して水に浸った砂礫の中から水晶を見つけ出して、お土産として持ち帰ってもらうというイベントで、地質標本館としては2000年夏以来の取り組みとなりました。水晶はキラキラと輝き美しい六角柱状を示すため、普通の鉱物の中ではかなり魅力度の高い鉱物の一つです。そこで一般の人達(特に子供)に水晶と出会ってもらい、この出会いが鉱物や地質に興味をもってくれるきっかけとなることを願ってこのイベントを開催することにしました。そして4月下旬にイベント用試料を福島県郡山市にて採集しました。

イベント当日は館内の多目的展示室において、午前10時から1回15分で、合計20回的水晶拾いを行いました。



写真 水晶拾いに熱中する中学生たち。皆さん真剣です。

水晶取り放題とするとあっという間に水晶が無くなってしまいうので、持ち帰りは3本だけとし、制限時間は10分に設定して最初の7分で採集、残りの3分で3本に絞るという方針で臨みました。最初に水晶の特徴(キラキラ光って透明で、鉛筆のような形)を説明して採集開始です。最初はどれが水晶かが分からなかったり、残りの3分でどの水晶を選べばよいかで悩んだりする子供もいました。このような参加者を直接指導したのは博物館学芸員を目指すため地質標本館に実習で訪れている千葉大学の学生達です。どれが水晶か分かれば、子供たちは水晶探しに夢中になり、飽きることなく7分間採集に没頭していました(写真)。そして大きな水晶が見つかる度に歓声があがっていました。多くの参加者は水晶の魅力を感じてくれたようです。

今回の参加人数は235名で、10年前に開催した時の618名の半分以下でした。最近の地質標本館のイベントは午前中混雑するのですが、午後にはイベント目的の来館者が少なくなるという傾向があり、昔に比べて参加者数が減っているのがやや残念です。近年つくば市内の各研究機関のアウトリーチ活動が盛んになり、体験型普及イベントがさほど珍しくなくなったことが原因の一つなのかもしれません。また地質標本館ロビーでは、地質の日関連イベントの一環で、地盤の液状化の実験解説も行われました。地盤の液状化現象を直接見ることができるため、多くの見学者の興味を引いていました。最後に、このイベント運営に向けて様々なご協力をいただいた皆様にお礼申し上げます。

豊橋市自然史博物館「地質の日」記念講演会「豊橋の大地の成り立ち」

中島 礼・宮崎 一博 (地質情報研究部門)・吉川 博章 (豊橋市自然史博物館)

愛知県東部に位置する豊橋市周辺の東三河平野から渥美半島にかけての5万分の1地質図幅「豊橋及び田原」と「御油」が2008年度、「伊良湖岬」が2009年度に出版されました。そこで、この図幅出版を記念して、5月9日に豊橋市自然史博物館において、標記記念講演会が地質調査総合センターと共催で開催されました。講演題目は「豊橋の大地の成り立ち」とし、秩父帯付加コンプレックス、領家変成コンプレックス、三波川変成コンプレックス、領家深成岩からなる基盤岩とその上位に重なる第四系の2つの構成で講演することにしました。講演内容は、まず3図幅の基盤岩の調査を担当した宮崎が「3億年の大地の変動」と題して、主に三河高原などの山地を構成している豊橋の

基盤が3億年の歴史を経てきたことを講演しました(写真1)。三河高原に分布する領家変成コンプレックスの変成岩から得られた温度圧力条件から、水平方向に広がる三河高原の岩石はちょうど大陸地殻の深さ数10キロに相当するという知見が得られ、つまり地下の地殻構造を地上のフィールドで体験できるという面白みが参加者にはわかってもらえたようでした。その後、中島が「50万年間の気候をさぐる」と題して、豊橋平野の第四系の研究から、氷河性海水準変動と地殻の隆起が現在の豊橋平野や渥美半島を形成したことが明らかになったと講演しました。2つの講演から、豊橋周辺における地質はまさに地球活動のダイナミクスが集約されているという面白みがあり、皆さんに

理解してもらえたことを期待しています。

講演会には愛知県の内外からの50名ほどが集まり、会場は満員となりました。講演後には多くの質問が出ました。質問内容は専門的で高度なものが多く、アンケート結果から「大変面白かった」と大半が回答していることから、地質や環境について興味を持っている人たちが多いことが実感されました。

同博物館では、4月24日から6月27日にかけて、収



写真1 講演会の様子。

蔵資料紹介展「渥美半島の化石と地質」も地質調査総合センターと共催で開催されています（写真2）。この紹介展では、化石標本の展示のほか、図幅作成の成果として、3図幅を合わせた床張り地質図や図幅説明書などの図や写真を用いて地質の解説もされています。この展示に関して、地質調査情報センターの川畑 晶さんと中島和敏さんにご協力いただきました。心より感謝申し上げます。



写真2 収蔵資料紹介展の様子。

平成22年度新入職員研修（野外巡検）

松島 喜雄（地質調査情報センター）

新入職員研修の一環として野外巡検が5月11日（火）に行なわれました。参加者は新人15名、引率8名の総勢23名です（写真）。5台の車に分乗して、最初の目的地である美浦村に向けて第7事業所を出発しました。

美浦村では馬掛（まがき）で古東京湾の地層を観察しました。道路ぎわから崖上にある馬掛不動堂へ登る標高差約10mの区間で、泥岩層、砂岩層、化石の密集する層、生痕化石やリップルを含む層などがめまぐるしく変化する様子を見ることが出来ます。地層から推定される古環境の説明を聞きながら、露頭の前で想像をたくましくさせて、眼前に漂うはるか太古の大海原に思いをはせました。

次の目的地は稲田にある花崗岩の採石場です。切り込みによって現れた白い山肌が数百メートルの断崖を形成しており、花崗岩のスケールの大きさに圧倒されました。広場には花崗岩のモニュメントが展示されています。しかし、せっかくのアートにはお構いなく、黒雲母の模様からマグマの流動についての議論へと盛り上がりました。その後、桃山のオフロードバイクの練習場で花崗岩を、筑波山梅林で筑波山を形作るという斑れい岩を観察しました。これら深成岩類が現在の山体になるまでとてつもない時間の経過とさまざまな事件があったのでしょうか。そこに転がっている岩にも愛着がわいてくるようでした。

最後に桜川の河原にて、河原の石や礫の地層を見ながら、桜川や周辺の大地の変遷についてレクチャーしていただきました。説明を聞きながら、私たちが普段見慣れている景色にも、いろいろな情報が隠されているのだなとあらためて実感しました。第7事業所に戻ってからは、今回の巡検を企画していただいた西岡芳晴さん、中島 礼さん、宮地良典さん、高橋裕平さんによって親睦会が開かれ、新人を交えての研究話に花が咲きました。この場を借りて各氏には参加者を代表してお礼させていただきます。ありがとうございました。

最後に巡検参加者からの感想です。

- ・稲田石の石切り場を見て、同じ花崗岩でも組成によって色などが異なっているのが分かりよかった（船津貴弘）。
- ・つくば周辺の地質を知る上でよい体験でした。また、他分野の方と関わるができる点も良いと思いました（佐藤大介）。
- ・自分が住み・働く身近な場所のダイナミックな歴史・景色を見る事が出来、とても楽しく巡ることができました（板場智史）。
- ・白雲母が手に入って嬉しかったです。体力が戻ったらまた行きたいです（眞坂淑恵）。
- ・石切り場のオブジェが楽しかったです。ありがとうございました。

いました（野々垣進）。

- ・つくば周辺の身近な所のはずでしたが、すべて初めての知見を得ることができました。石切り場のあの切り出し状況は圧巻でした。ご案内を下さったみなさまに心からお礼申し上げます。お忙しいところまことにありがとうございました（行谷佑一）。
- ・久しぶりに野外に出られて楽しかったです。各所での解説？もわかりやすく、興味深かったです。ありがとうございました（吉岡真弓）。
- ・意外につくば周辺の事を知らなかったので非常に有意義でした。第四系については今後の研究にも役立つ可能性があり、また、石切り場は印象深いものでした。ありがとうございました（近藤玲介）。
- ・他分野の研究を知れて楽しかったです。分かりやすい解説ありがとうございました（廣田明成）。
- ・つくばの地質について、もっと詳しく知りた

くなりました。認識を新たにする、たいへん良い機会でした。ありがとうございました（西田尚央）。

- ・筑波山について、もう少し知りたかった。勉強します。河川のシステムが変わったことや、海水準と地殻変動の組み合わせによりつくばの地面が形成されたことを実感？？しました。花崗岩テクスチャーにテンションがありました。ありがとうございました（三輪学央）。



写真 桃山にて（中島さん撮影）。

つくばフェスティバル2010に実験ブースを出展

宮地 良典（地質情報研究部門）・澤田 結基（地質標本館）・高田 亮（地質情報研究部門）

地質標本館では、5月15日（土）、16日（日）に行われた「つくばフェスティバル」に、今年も実験ブースを出展しました。つくばフェスティバルは、つくば市主催のイベントで、毎年大型連休明けに開催されています。例年はずくば駅周辺の開催ですが、今年はずくば市役所の新庁舎完成を記念して、新庁舎前の広場で行われました。2日間とも好天に恵まれた会場は、大勢の市民で賑わっていました。主催者発表によると、2日間の入場者数は延べ約8万人に達したようです。

屋外の広場に設置されたテントには、3つの実験を出展しました。

「遊びながら学ぶ火山噴火」では、富士山が噴火すると、どのように火山灰が、東京やつくばへ飛んで堆積するのかという実験と、火砕丘が成長していく実験を行いました。発泡したマグマはペットボトル内の砂とエアポンプで注入される空気に、地面はASTERの衛星画像に、偏西風は扇風機の風で置き換えました。子供は砂遊びが大好きなので、実験にはまってしまう子も沢山いました。思いっきりポンプを踏み込み1m以上砂の噴煙をあげた子もいました。外国人の方が今話題のアイスランドの噴火の話をしにきました。

「エキジビッシャーで地盤の液状化を体験しよう」では、地震の際に発生する液状化現象を、ペットボトルを用いた実験装置「エキジビッシャー」などを用いて観察し、実際にあつ

た災害写真を見ながら解説しました。地震の際の液状化現象では、噴砂現象やマンホールの抜け上がりなどの現象が起こります。これらを簡単に再現することで、「聞いたことはあるのだけれど、どのような現象かわからなかった。こんな現象とわかった。」などの声を聞くことができました。

「つくばの土地ができる様子を観察しよう」では、普段は小学校団体に見せている、水路を用いた堆積実験を行いました。実験では、流速の弱くなる河口付近に砂が堆積して三角州が成長する様子や、水位を下げて三角州が侵食されて台地が残る様子を実演し、つくば市の中心部がある台地地形が、寒い水期の海面低下と隆起によってつくられたことを説明しました。水路を流れた砂が河口でぱたと止まる様子や、水位が下がったときのダイナミックな地形変化に、多くの親子連れが見入っていました。

その他にも、テントの前に「筑波の環境地質図」を拡大したものを道路に広げ、筑波台地の地層からわかる筑波の生い立ちについて説明しました。まず、自分の家が安全なところか？という質問も多くありましたが、多くの方が知らなかった大地の歴史にロマンを感じていただけたと思います。

今回のブース出展では、GSJの新人研修で参加を希望された新入職員が土日とも4名ずつ、合計8名が参加しました。地学の現象を専門用語なしに市民に伝えることはなか



- 写真1 出展風景。ブースの前には、研究学園の環境地質図を床張りしました。
- 写真2 火山コーナー。子供たちに大人気。
- 写真3 巨大エキジョッカー「大ジョッキ」も登場しました
- 写真4 水路実験では子供も大人も、予想外の砂の動きに興味津々でした。

なか難しく、慣れるまでに時間がかかりますが、新入職員の皆さんはてきぱきと実験を進め、すぐに説明に慣れていったようでした。5月とは思えないほど暑い日差しのなか、

予想を超える来客をさばくのは大変でしたが、この経験はきっと、これからのアウトリーチ活動に活かされていくことと確信しています。

日本ジオパーク委員会公開プレゼンテーション、および第8回日本ジオパーク委員会開催報告

濱崎 聡志（地質調査情報センター）

日本ジオパーク委員会（JGC）の2010年応募は4月26日に締切られ、世界ジオパーク申請候補2地域（室戸、阿蘇）、日本ジオパーク候補3地域（白滝、伊豆大島、霧島）から申請がありました。申請書を受理したJGCは審査のためのプレゼンテーションを行います。今年度は、初め



写真1 公開プレゼンテーションの様子。



写真2 第8回日本ジオパーク委員会の様子。

ての試みとして、千葉幕張メッセ国際会議場で開催の日本地球惑星科学連合大会初日である5月23日（日）に、一般セッション「ジオパーク」において、公開プレゼンテーション形式で審査を行いました（写真1）。

本セッションでは、まず午前から午後にかけて、ジオパークにおける研究者や大学、自然ガイドなどの取り組み、日本の世界ジオパーク3地域における専門家の役割など、今後ジオパークを発展させていく上で研究者がどう関わっていくかということに焦点をあてた講演が行われました。200名収容の会場は、当初いったいどれくらいの人たちが聴きに來るのか予測のつかない中、どんどん聴衆が増え、公開プレゼンテーションが始まる頃には、満席かつ多くの立見客という熱気に包まれたものとなりました。

まず、公開でプレゼンテーション審査を実施することになった趣旨説明が行われました。その後、前列のJGC委員11人と関係省庁オブザーバー、その後ろの一般参加者が聴き入る中、阿蘇、室戸、霧島、伊豆大島、白滝黒曜石の順に行われました。発表後、委員からのきびしい質問に答える申請地域は、この日のために1年間頑張ってきたんだ！という熱意を込めて、まさに真剣勝負でした。委員からの質問で各地域に共通した内容として、売りとなるジオストーリーの充実、地元自治体や住民がきちんと連携し、

観光地ではなくジオパークとしての体制になっているかどうか、ガイドの整備状況などに関するものが多く出されました。また火山地域に対しては、ジオパークになったときの安全や防災面についての質問も目立ちました。5地域終了後には、一般からの質問も受け付けられ、ジオの説明に関しては研究者の成果に十分な配慮が要望されたほか、ガイド養成に関する大学や各地域の今後の取り組みやシステムに関する質疑応答も活発に行われました。午後5時を過ぎ、まだまだ質問は絶えない雰囲気でしたが、初の公開プレゼンテーションは無事に終了しました。

続いて、5時15分からは、第8回JGC委員会が同会場

で開催されました(写真2)。これは非公開です。議題の中心はもちろん当日プレゼンテーションを行った申請地域に関する審議です。活発な意見が交わされました。JGCでは、このあと7~8月にかけて各2名の委員が申請5地域へ入り、現地審査を行う予定です。そして、9月14日に開催予定の次回委員会での最終審査を経て、2010年の世界ジオパーク申請候補、および日本ジオパークが認定される予定です。申請地域にとっては、ほっとする間もなく、現地審査が待っていますが、きびしい審査をクリアして多くの朗報が各地域に届けられることをJGCとしても期待しています。

日本地球惑星科学連合2010年大会ブース出展展示

藤原 智晴・濱崎 聡志(地質調査情報センター)

5月23日から28日にかけて幕張メッセ国際会議場にて日本地球惑星科学連合2010年大会が開催されました。地質調査総合センター(GSJ)では例年どおりブース展示を2Fホールにて行いました(写真)。用意したパネルは、地質の日、ジオパークに関するものと、各ユニット、陸域地質図幅プロジェクト、沿岸海域の地質・活断層調査プロジェクト、地質標本館などの内容紹介でした。その他、地質図(4枚)、標本館特別展、化石アトラスのポスターを貼りだし、産総研、GSJのパンフレット数種を設置しました。そのうち化石アトラスのポスターを無料配布したとこ



写真 ブース展示の様子。

ろ、好評のため持って行かれる方が多く追加で補充したほどです。

ブースでは、地質図(紙媒体、CD-ROM)、鉱物トランプ、絵葉書の販売も行いました。売れ筋は鉱物トランプの53個を筆頭に、「1/20万シームレス地質図 DVD版」の11部、「1/20万 八代及び野母崎の一部」の8部でした。その他にも新刊を中心に売り上げが好調で、昨年を大きく超える金額となりました。なかには、「これはすばらしい、友達の分もお土産に」と鉱物トランプを二つ購入した人もいました。また、地質調査総合センターを案内する動画の上映とCDの見本展示をパソコンで行いました。

来客者の問い合わせは、地質図に関するものがほとんどでしたが、なかには、GSJのやっていること、どうしたら就職できるのかといったこともありました。また、ジオパークに関する問い合わせも10件ほどありました。

展示資料の作成には各ユニット、標本館にご協力いただきました。ラミネートしたパネルの製作や展示物の搬送、ブースの設営、店番などに今年も多くの方にご尽力いただき無事に行うことができました。おかげさまでGSJの広報に一役買ったのではないかと思います。この場を借りて関係者の方々にお礼申し上げます。

ジオネットワークつくばニュース5月号

柳澤 教雄(地圏資源環境研究部門)・利光 誠一(地質標本館)・宮崎 光旗・古川 竜太・佐藤 由美子・藤原 智晴(地質調査情報センター)

第12回サイエンスカフェ(5/9)

今年度最初のサイエンスカフェは、地質の日(5月10日)を記念して、5月9日の日曜日に共用講堂のホワイエで開催されました。今回は、「元素の地図(地球化学図)を知っていますか?—知ろう! 足下の化学を—」というタイトルで、太田充恒さん(地質情報研究部門)が講演をされまし

た。太田さんは、出版されたばかりの「海と陸の地球化学図」や会場にはりだされたカリウムやクロム、ヒ素などの地球化学図を示しながら、地球化学図とはどういうものか、ほかの地図(たとえば地質図や土地利用図)とどのような関係にあるのかを分かりやすく説明しました。地球化学図を作るにあたって、陸上ではおよそ3,000カ所の川砂を、



写真1 会場風景：日曜日の午後，共用講堂
ホワイエで。



写真2 会場風景：お話しする太田さん。



写真3 元素の周期表：右奥で説明する柳澤。

海ではおよそ 5,000 カ所の海底の泥や砂を集めたそうです。分析した元素は 53 種類にものぼり，完成まで約 10 年もかかったとの事でした。元素の分析方法や地図の作り方などを紹介したあと，地球化学図をどう読むかについて，銅の地球化学図と富士山の岩石との関係や，恐山など温泉地帯に見られるヒ素の濃集の例を引きながらお話しされました。お話しが一段落したところで若干の休憩，そして質問タイムへと移りました。質問では「なぜケイ素の地図がないのか」というような基本的な事や「鉱山はどのようにして出来たのか」という応用問題的な質問がありました。また，はりだされた地球化学図を前に，参加者と一緒に元素の図の特徴を議論するなどして分かりやすく話されました。

いつもは金曜日の夕方から開催されるサイエンスカフェですが，今回は日曜日の昼過ぎ，お天気もよく，ホワイエには多くの参加者が来られました。大人に混じって参加された小学生や中学生も熱心にスライドを見ながら話に聞き入っていました。太田さんのお話の後，元素の図表であ

る周期表を見学し地質標本館へと足を運びました。カフェ参加者 40 名を 2 班に分けての見学です。

周期表のパネルは地質標本館 2 階のもっとも奥にあります。この 3 月に改装したばかりのもので，各元素を含む代表的な鉱物サンプルを展示しており，タッチパネルを用いて各元素や鉱物の解説をみることができます。筆者の一人（柳澤）も一部の元素の解説執筆を担当しました。その縁もあり，ここでは柳澤による説明となりました。

参加者には，まず，元素の周期性を不活性ガス，アルカリ金属，ハロゲンなどを例に説明しました。そして蛍石や石墨など展示してある鉱物をいくつか見せた上で，タッチパネルの使い方を示しました。さらに，誕生石の元素当てクイズを行いました。その後の質疑応答では地球化学図のサイエンスカフェに来るだけあって手強い質問が多く，ベリリウム，マグネシウムがアルカリ土類金属になっていない理由，Li の産状や量が少ない理由などの質問が印象に残りました。

新人紹介

佐藤 大介 (さとう だいすけ) (地質情報研究部門)

4 月 1 日付で地質情報研究部門・地殻岩石研究グループに配属となりました，佐藤大介と申します。2010 年 3 月に島根大学大学院修士課程を修了後，産総研に採用されました。出身は福岡県と，今まで住み続けてきた西日本を離れ，今回初めて東日本に住むこととなりました。こちらに来てからは地震の多さに驚いています。

大学では，火山岩についての研究を行ってきました。フィールドは島根県松江市にある約 500 万年前に噴出した火山で，岩石学的・岩石化学的検討を行ってきました。これからは，西南日本弧内帯をフィールドとした地質図幅の調査・研究を主として，社会貢献に努めていきたいと思ひます。

さまざまな専門分野の研究者の方々が集まるこの産総研で仕事ができることとなり，大変光栄に思うと同時に，その中で業績を出し続けるという責任感も感じております。まだまだ未熟で至らぬ点も多々あるかとは存じますが，広範な視点・経験を持つ研究者を目指し，一生懸命励んでいきたいと思ひますので，ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



地質情報研究部門

地殻岩石RG

佐藤大介：大学では火山岩に関する研究を行ってきました。これからは、産総研という様々な研究者の集まる環境を生かして、幅広い視点と経験を得ていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

海洋地質RG

佐藤智之：京都大学で堆積学を学んできました。堆積物、現世地形の観察をしてきました。これからは反射法音波探査で海洋地質図を作成します。よろしくお願ひいたします。

天野敦子：海底堆積物の粒度や元素の変化を基に古環境復元を行っています。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

西田尚央：これまで行ってきた堆積学の研究を活かし、新たなテーマとしての海洋地質の研究に精一杯取り組んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

情報地質RG

根本達也：3次元地質モデリングのための理論的基礎に関する研究やシステムの開発を行っています。よろしくお願ひいたします。

長期変動RG

藤内智士：野外調査を軸として地殻の変形過程を対象としていきます。専門は構造地質学ですが、他分野にも興味をもって研究に取り組みたいです。よろしくお願ひいたします。

山口直文：これまで取り組んできた堆積学をベースに、長期地質変動に関して幅広く研究していきたいと思ひます。ジャズ部の活動も頑張ります。

層序構造地質RG

近藤玲介：これまでは、主に北海道における第四紀後期の地形発達と高精度編年に取り組んでまいりました。産総研ではこれまでの経験を生かし、本州北部において地形発達史に関する研究業務に従事します。どうかよろしくお願ひいたします。

地質標本RG

坂田健太郎：専門技術者育成事業という制度を活用して多くの資格を取得し成長したいと思ひています。普段は火山灰の屈折率測定を主な仕事としています。よろしくお願ひいたします。

火山活動RG

廣田明成：産総研のよい研究環境を活用して頑張ります。よ

(順不同、敬称略、寄稿していただいた方のみです)

ろしくお願ひします。

マグマ活動RG

三輪学央：火山噴火メカニズムの研究をしています。一年間、よろしくお願ひします。

地図資源研究部門

CO2地中貯留RG

船津貴弘：海外での金属資源の開発に係わる研究や斜面防災、地下空間の利用についての研究を行ってきました。産総研では地質についての知的基盤を有効活用して研究を遂行したいと思ひます

地下水RG

井川伶欧：これまでは水文学をベースに降水・河川水・地下水など様々な水の研究を行ってきました。現在は沿岸域の深部地下水の研究に携わっています。今後とも宜しくお願ひします。

吉岡真弓：地下水流動や熱輸送のモデリングに関する研究を行っています。今後は野外調査も含め、視野を広げて研究していきたいと思ひています。宜しくお願ひ致します。

地質特性RG

今野祐多：すぐ傍で色々な分野の研究が行われているこの環境を存分に享受したいと思ひます。サッカーも頑張ります！

鉱物資源RG

昆 慶明：大学ではLA-ICPMSという装置を用いて花崗岩の研究をしておりました。我々のグループにも昨年度から導入されたようなので、使いこなせるように頑張ります。よろしくお願ひします。

活断層・地震研究センター

地震地下水RG

坂場智史：東海・紀伊半島・四国における歪や地下水の観測を通じて主にスロースリップ、深部低周波微動の研究を行っています。よろしくおねがいたします。

海溝型地震履歴RG

行谷佑一：歴史記録から過去の地震・津波の状況を明らかにし、数値計算を用いて地震の断層モデルを推定する研究を行っています。どうか、よろしくお願ひいたします。

スケジュール	
4月13日～7月11日	地質標本館 春の特別展「揺れる日本列島」
6月25日	ジオネットワークつくば第13回サイエンスカフェ『田んぼの魚、川の魚』 http://geonet-tsukuba.jp/science/257
7月21日～9月26日	地質標本館 夏の特別展「有珠火山ーその魅力と噴火の教訓ー」
7月24日	産総研つくばセンター 一般公開 http://www.aist.go.jp/aist_j/event/ev2010/ev20100724/ev20100724.html
7月24日	地質標本館特別講演会「火山噴火災害の現場から」 講演者：千葉達郎氏（アジア航測株式会社）（共用講堂）
7月25日	ジオネットワークつくば第14回サイエンスカフェ 『チョウと仲良くなるには』 http://geonet-tsukubajp/science/260
8月20日	化石クリーニング教室（地質標本館）
8月21日	地球なんでも相談（地質標本館）

編集後記

松島 喜雄 (地質調査情報センター)

いよいよワールドカップが開幕です。筆者も昼休みサッカーに興じています。アイコンタクトという言葉をご存知でしょうか？視線を合わせるだけで仲間の考えていることを察知し、相手の裏をつくようなパスを出す。それがうまく通ったときには、ただそれだけで言いようもなく楽しくなります。企画に来て2ヶ月過ぎましたが、その仕事の本質は「人と人の橋渡し」のようです。人付き合いは不得手ですが、組織が上手く機能するように微力ながら励んでいきたいと思ひます。いつか仕事でも、アイコンタクトができるようになるでしょうか。

GSJ Newsletter No.69 2010/6

発行日：2010年6月17日
発行：独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
編集：独立行政法人産業技術総合研究所地質調査情報センター
脇田 浩二（編集長）
松島 喜雄（編集担当）
菅家 亜希子（デザイン・レイアウト）
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第7
TEL:029-861-3687 / FAX:029-861-3672

◆GSJニュースレターは、バックナンバーも含めて、地質調査総合センターホームページでご覧になれます。

地質調査総合センターホームページ <http://www.gsj.jp/>